

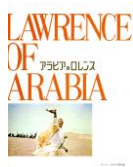
甲状腺外科草子 71

ちょっと気取った映画 2：脇役の妙

杉野 圭三

映画の世界は無限で名作を全て述べることは不可能に近い。監督や主演俳優の力量も重要だが脇役の活躍も重要で、時には主役を食ってしまうこともよく見かける。

アラビアのロレンス (デヴィッド・リーン監督、1962)



当時のパンフレット P・オトゥール T.E.ロレンス中佐

この映画を見たのは中学2年(1968)、梅田OS劇場、当時最新の210mmワイドスクリーンの最前列付近であった。画面が広すぎ、首が痛く酔いそうになった鮮烈な記憶がある。



オマー・シャリフ アンソニー・クイン アレック・ギネス
アカバ侵攻の迫力もすごいが、P・オトゥールや錚々たる多数の脇役たちの名演が光る。

グラン・ブルー (リュック・ベッソン監督、1988)

実に美しい映画で、終盤にやや冗長な部分もあるが、冒頭の展開と映像は圧巻である。伝説のダイバー、ジャック・マイヨールを題材としているが、脇役のエンゾを演じるジャン・レノの存在感が強烈で、主演のジャン＝マルク・バルが脇役のようなものである。リュック・ベッソン監督は「Taxi」や「トランスポーター」のシリーズを手掛け、映画本来の面白さが分かっている監督である。



J・レノ

J・M・バル

真夜中のカーボーイ (J・シュレシンジャー監督、1969)

アカデミー作品賞、監督賞、脚色賞を受賞。高校生の時に見たアメリカン・ニューシネマを代表する映画である。ジョン・ヴォイト主演。脇役がダスティン・ホフマンだが、どち

らが主演か分からないような強烈な存在感を發揮している。



J・ヴォイト D・ホフマン A・ジョリー

ダスティン・ホフマンは1967年の「卒業」が評判となった。映画主題歌のサイモン&ガーファングルの「Sound of silence」, 「Mrs. Robinson」も大ヒットであった。

主演のジョン・ヴォイトはミッション・インポッシブルなど多くの映画の脇役で見かけることが多い。アンジェリーナ・ジョリーの父親でもある。

夜の大捜査線 (ノーマン・ジュイソン監督、1967)

アカデミー作品賞、脚色賞、ロッド・スタイガーが主演男優賞を受賞、シドニー・ポワチエの名演が光る。偏見に満ちた田舎の警察署長が都会の黒人敏腕刑事と組むことになる。



シドニー・ポワチエ(左) ロッド・スタイガー(右)

最後の駅のシーンが秀逸である(見ないと分からないかな?)。



招かれざる客 J・シムカス(冒険者たち)

ポワチエは「野のユリ(1963)」でアカデミー主演男優賞を受賞、「招かれざる客(1967)」などで高く評価された。

しかし、遺憾ながら「冒険者たち(1967)」に「レティシア」役で出演し多くのファンを持つジョアンナ・シムカスと結婚したことにより、一部のファンからは恨まれ、未だに許されていない(小生もまたしかり)。

映画ファンの逆恨みほど怖いものはない。

(一甲状腺外科医の徒然なる随想)

2023年8月2日